

## (2) A 大学看護系学科における新入生と卒業生の社会人基礎力の比較

保健看護学部保健看護学科 ○古賀 雄二  
保健看護学部保健看護学科 石田実知子  
保健看護学部保健看護学科 西田 洋子  
保健看護学部保健看護学科 若井 和子

### 【目的】

A 大学看護系学科の新入生と卒業生の社会人基礎力に関する現状評価を行い、教育的課題を抽出すること。

### 【方法】

研究デザインは、自記式質問紙による横断研究とした。A 大学看護系学科4年生（2020年度卒業生）全員および同大学1年生全員を対象に、社会人基礎力を問う36項目を用いた質問紙調査を行うとともに、A 大学の教育理念に対する自由記述を補完的データとして収集し、社会人基礎力の学年間比較を行った。量的データは Mann Whitney の U 検定を用いて学年間比較を行い、自由記述データは質的帰納的に分析した。データ収集は、A 大学 Microsoft Teams 内の看護系学科4年生および1年生の専用 Team を通して、調査協力依頼書と説明動画による研究依頼を行い、Microsoft Forms を用いた Web 式質問紙への入力依頼を行った。4年生は2021年3月20日～3月末、1年生は2021年5月の2週間で実施した。川崎医療福祉大学倫理委員会の承認を得て実施した（承認番号20-097）。

### 【結果】

1年生66名（回収率51.2%）、4年生52名（回収率41.9%）分の回答が得られた（有効回答率92.0%）。社会人基礎力構成要素のうち、アクションとシンキングに有意差はなく、チームワークのみ有意差（ $p<.04$ ,  $r=.39$ ）が認められた。また、1年生および4年生ともに大学の教育理念に対して社会人基礎力の12要素すべてと関連した思いを有していた。

### 【考察】

学生が抱く自己成長の枠組みが、学生自身から多職種連携の枠組みに拡大したこと、他者の理解・尊重のための自己理解の必要性を認識していることが示唆されたことが特徴的であり、これらを促進する要因を明確にすることが教育的課題の抽出につながると考えられる。医療系総合大学における入学時からの教育理念に基づく学問領域（医療福祉）に関する教育が、あらゆる分野の医療人として共通認識を与える基盤的教育となっており、専攻分野（看護）の理解と主体性の形成に影響している可能性が示唆された。